

[前画面へ戻る](#)

科目名 産業社会学Ⅱ
配当年次 1 年次
開講期間 秋学期
単位数 2
担当教員 塚本 成美(ツカモト ナルミ)
期間・曜日・時限・教室 秋学期 火曜日 3 時限 1 7 - 2 0 2

※

授業の目的・目標

①授業の概要：私たちは、本当に豊かな社会に暮らしているのだろうか。産業社会の発展はたしかに人間生活をこのうえなく豊かにしたが、その一方で、様々な陰の部分を生み出した。本講義においてとくに重視したいのは、格差と貧困、社会的排除の問題である。現代日本は格差社会といわれ、新しい貧困が問題となっている。貧困層にとっての問題は、第一に生活の困窮であり、第二に、生活の質の劣化である。貧困は、物的欠乏を意味するだけではなく、社会生活の質的劣化をも意味する。また、貧困層あるいは低所得者層の労働は、日雇労働や非正規雇用労働に典型的にみられるように、単純で過重労働が圧倒的である。本講義では、このような問題意識のうえで、現代産業社会(あるいはポスト産業社会)の格差と貧困を考えた

②授業の目的：産業社会の構造と問題性を知ることによって、雇用労働の社会的意味を考える力をつけることをめざす。

③習得できる力：経営学部ディプロマポリシーあるいは全学部ディプロマポリシーとの関連については、別紙に示します。

④授業の到達目標：格差や貧困、社会的排除とはどのようなことであり、どのようにして生じるのかを理解し説明できるようになる。

⑤実務経験と授業内容との関連：なし

準備学習等の指示

1回の授業について

・予習（1時間45分）：授業資料となるPDFを一週間前にWebclassにアップするのでよく読んでおくこと。

・授業で取り上げるPDFと参考書などにより、授業の大まかな流れをつかんでおくこと。次回対象となる項目については各授業の終了時に説明する。

・復習（1時間45分）：授業で取り上げた重要なポイントを中心に、ノートを見直し論点を整理して、確認テストを作成・提出すること。次回授業時に適宜内容を確認

認し、フィードバックを行う。

課題の配布や提出を行うため、WebClass等のLMSを用いる。

講義スケジュール ■ 1回目

【テーマ】 現代社会の構造特性(1)ー産業化の帰結と個人化(シラバスの説明)

【到達目標】 19世紀以来の産業化によってもたらされた社会問題と個人化という状況をすることで、現代日本の問題性を分析するための前提が理解できるようになる。

【準備学習】 シラバスをもちいて本講義の問題設定と構成を説明しますので、シラバスを読んでください。

■ 2回目

【テーマ】 現代社会の構造特性(2)ーグローバル化する社会

【到達目標】 現代社会の第1の構造特性であるグローバル化の現状と、グローバル化のもたらした政治的、経済的、および社会的変容をすることで、現代人の日常生活とグローバル化を結びつけて考えることができるようになる。

【準備学習】 Webclassにアップしてある講義資料のパワーポイント(PDF)を見ておくことが理解が深まります。また、パワーポイントを印刷して講義に持参し、メモをとりながら聴くと復習するときに便利です。

■ 3回目

【テーマ】 現代社会の構造特性(3)ーポスト工業化と貧困

【到達目標】 現代社会の第2の構造特性であるポスト工業化の現状と、ポスト化のもたらした職業や労働、社会の変容をすることで、現代人が日常生活に感じている閉塞感と格差社会生成の源泉を理解することができるようになる。

【準備学習】 Webclassにアップしてある講義資料のパワーポイント(PDF)を見ておくことが理解が深まります。また、パワーポイントを印刷して講義に持参し、メモをとりながら聴くと復習するときに便利です。

■ 4回目

【テーマ】 ポスト工業化と新自由主義

【到達目標】 ポスト工業化による産業構造の変化と雇用構造の変化、それにとともなうサービス労働の増加に関する現状を知り、なぜポスト工業化職種は低賃金化の圧力にさらされているのかを理解することで、現代における貧困の一因を考えることができるようになる。

【準備学習】 Webclassにアップしてある講義資料のパワーポイント(PDF)を見ておくことが理解が深まります。また、パワーポイントを印刷して講義に持参し、メモをとりながら聴くと復習するときに便利です。

■ 5回目

【テーマ】 新自由主義と福祉国家の転換

【到達目標】 ポスト工業化がなぜ現代における格差や貧困につながるのか、80年代以来経済政策の中心的思想であった新自由主義との関連を考えることで、新自由主義の浸透とともに格差がどのように広がっていったのかを理解できるようになる。

【準備学習】 Webclassにアップしてある講義資料のパワーポイント(PDF)を見ておくことが理解が深まります。また、パワーポイントを印刷して講義に持参し、メモをとりながら聴くと復習するときに便利です。

■ 6回目

【テーマ】 格差社会と貧困の問題性

【到達目標】 貧困問題の本質、格差社会の現状と原因、貧困とは何か、格差と貧困、社会的排除の本質を知ること、格差社会の本質を理解できるようになる。

【準備学習】 Webclassにアップしてある講義資料のパワーポイント(PDF)を見ておくと理解が深まります。また、パワーポイントを印刷して講義に持参し、メモをとりながら聴くと復習するときに便利です。

■ 7回目

【テーマ】 現代社会の構造特性とはどのようなものか、またその特性はどのように格差と結びついているか。(課題レポート及びフィードバック)

【到達目標】 講義の内容に沿って現代社会の構造特性と格差の問題を結びつけて論述することで、文章力が付くだけではなく、考えをまとめ自分の言葉で表現できるようになる。

【準備学習】 Webclassにアップしてある講義資料のパワーポイント(PDF)や講義時のノートなどを見直し、現代社会の構造特性とはどのようなものかについて自分なりの論理構成をたてておくと、レポートを書くのに便利です。

■ 8回目

【テーマ】 貧困と社会構造——社会階級論

【到達目標】 社会階級・社会階層、職業階層、市場適合的能力と階級化

社会階級の理論と社会構造と職業構造の関係を理解することで、社会構造を分析的に説明できるようになる。

【準備学習】 Webclassにアップしてある講義資料のパワーポイント(PDF)を見ておくと理解が深まります。また、パワーポイントを印刷して講義に持参し、メモをとりながら聴くと復習するときに便利です。

■ 9回目

【テーマ】 貧困の文化

【到達目標】 様々な生活属性をもつ社会集団において貧困の世代間連鎖と社会構造の固定化がなぜおこるのか、貧困の文化や階級文化という概念を学ぶことで、理解できるようになる。

【準備学習】 Webclassにアップしてある講義資料のパワーポイント(PDF)を見ておくと理解が深まります。また、パワーポイントを印刷して講義に持参し、メモをとりながら聴くと復習するときに便利です。

■ 10回目

【テーマ】 貧困概念——絶対的貧困

【到達目標】 絶対的貧困の概念を中心に、19世紀末以来貧困がどのように把握されてきたか、ラウントリの古典的調査と研究を知ること、貧困を概念的・理論的に理解できるようになる。

【準備学習】 Webclassにアップしてある講義資料のパワーポイントを見ておくと理解が深まります。また、パワーポイントを印刷して講義に持参し、メモをとりながら聴くと復習するときに便利です。

■ 11回目

【テーマ】 近代化と貧困問題——明治以降の貧困問題認識

【到達目標】 日本の貧困史をたどることで、歴史を通じて貧困がどのように認識されてきたか、また社会的に排除されてきた社会集団がどのようなものであるかを理

解できるようになる。

【準備学習】Webclassにアップしてある講義資料のパワーポイント(PDF)を見ておくと理解が深まります。また、パワーポイントを印刷して講義に持参し、メモをとりながら聴くと復習するときに便利です。

■12回目

【テーマ】 相対的貧困－高度成長期以降の貧困

【到達目標】 高度成長期以降の日本の貧困を認識してきた「相対的貧困」概念を説明し、そのもとで貧困層の変遷、日雇労働者、障害者、野宿生活者等の生活実態などを知ること、現代の貧困を理解することができるようになる。

【準備学習】Webclassにアップしてある講義資料のパワーポイント(PDF)を見ておくと理解が深まります。また、パワーポイントを印刷して講義に持参し、メモをとりながら聴くと復習するときに便利です。

■13回目

【テーマ】 貧困と社会的排除

【到達目標】 日本における貧困問題を歴史的・理論的に考えることで、現代格差社会に対する洞察力をみにつけ、今後の社会のあり方について自分の考えをもつことができるようになる。

【準備学習】Webclassにアップしてある講義資料のパワーポイント(PDF)や講義時のノートなどを見直し、日本における貧困問題とはどのようなものかについて自分なりの論理構成をたてておくと、レポートを書くのに便利です。

教科書

なし。ただし、講義資料のパワーポイント(PDF)は、テキストの代わりになるようかなりの内容を書き込みます。

安田尚道/塚本成美『社会的排除と企業の役割』同友館

G.エスピン-アンデルセン『ポスト工業経済の社会的基礎』(渡辺雅男/渡辺景子訳) 桜井書店

参考文献

A.バラ/F.ラペール『グローバル化と社会的排除』(福原宏幸/中村健吾監訳) 昭和堂

T.H.マーシャル/T.ポットモア『シティズンシップと社会的階級:近現代を総括するマニフェスト』(岩崎信彦/中村健吾訳) 法律文化社

その他 講義のなかで紹介する

授業の方法

1.講義方式でおこないます。

①原則として対面でおこないますが、Zoomによるオンラインのリアル配信もおこないます。

②講義は録画してWebclassにアップし、オンデマンドでの視聴もできるようにします。

③講義の内容は、事前にWebclassにアップロードしておきます。

2.セメスター期間中に1-2回講義内容についての課題レポートを書いてもらいます(授業スケジュール参照)。課題レポートについては、次の講義時にフィードバックをおこないます。

3.双方向性を確保するために、講義後に確認テスト(リアクションペーパー)を提出してもらいます。確認テストでは、その日の講義内容および質問やわかったこと、感想などについて書いてもらいます。

- ①次回講義の最初に前回講義の復習をかねて、確認テストの答えと質問等のフィードバックをおこないます。
- ②履修者のコメントや感想は、匿名でWebclassにアップし共有します。いろいろな意見を参考にしながら講義内容の理解を深めていきます(問答法)。
- 4.課題レポートと確認テストの提出はすべて、Webclassでおこないます。

【評価方法・割合】確認テスト(50%)、中間課題レポート(25%)、期末テスト(25%)で評価します。

成績評価方法

【基準】(1)講義の理解度を、レポートの場合は、①論点が網羅されているか、②論点に関して十分な説明や論述が行われているか、③問題を正しく理解し、自分の言葉で理解して表現しているか、④論理的に構成されているか、⑤全体の分量などで評価します。

(2)確認テストの場合は、①正解がわかっているか、②質問は適切か、③講義内容を言語化できているかなど、で評価します。

【フィードバック方法】なお、課題等については、「授業の方法」でも書いたように、次回講義時に全体に向けてコメントします。

オフィスア
ワー

居室 17-412

ホームペー
ジ

その他特記
事項

添付ファイ
ル

[前画面へ戻る](#)